

P!NT

ピン！とくる徳島のサテライトオフィスのヒントbook

PiNT



徳島で サテライト オフィスを ひらく

interviews

― 江崎礼子さん 株式会社 ソノリテ
― 中村暉梨さん リヒトコンサルティング株式会社
― 米田卓也さん 株式会社 ジェニオ

one more hint

― 宮本亮嗣さん 株式会社 ORIOLE
― 早瀬志都加さん 株式会社 ファンドウィッチ
― 三谷博明さん 株式会社 アリエス

ピン！とくる徳島のサテライトオフィスのヒントbook



P!NT

ピン！とくる徳島のサテライトオフィスのヒント book
～ 徳島でサテライトオフィスをひらく～

発行：徳島県
発行年月：2024年12月

『P!NT』とは？

サテライトオフィスを開設した企業の経営者が開設を決めたことになった「ピント！」きた瞬間に焦点をあてる冊子です。徳島にオフィスをひらく「ヒント」を見つけて欲しい。そんな想いを込めています。

徳島の3つのエリアとその特徴

東部

県庁所在地である徳島市を含む5市9町1村からなるエリアです。吉野川の南北に広がる徳島平野を有し、かつては藍作で栄えました。市街地と自然がちょうどいい距離感で、まちごとに違った風景を楽しむことができます。



南部

阿南市、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町からなるエリアを指します。「海」「山」「川」の三拍子揃った、バリエーション豊かな自然を有するとともに、世界的な企業や人材を輩出するなど進取の気風にあふれた土地柄です。



西部

美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町からなるエリアで、「にし阿波」とも呼ばれています。西日本第2位の高峰「剣山」や日本三大秘境の国重要文化財「祖谷のかずら橋」など日本の原風景が多く残っているエリアです。



サテライトオフィス
開設企業数 2024年
3月末現在 112社

徳島県では、2012年3月から、豊かな自然環境や全国屈指の光ブロードバンド環境を最大限に活用し、都市部企業のサテライトオフィスを呼び込む「とくしまサテライトオフィスプロジェクト」を開始しました。2024年3月末時点で、112社が進出し、全国有数のサテライトオフィス進出数を誇ります。

本冊子では、徳島県でサテライトオフィスを開設した企業6社の経営者にインタビューし、サテライトオフィスを開いた経緯や地域との関わり、事業展開についてお話を伺いました。企業ごとにオフィスを開設する経緯やその役割は様々。インタビューを通して見えたのは、新しい可能性を拓けようとする各社の取り組みと、地域の人たちとの関わりの中で育まれるサテライトオフィスのあり方でした。新しい働き方の実験や異業種への挑戦、新規事業の創出など、サテライトオフィスを通して生まれる新たなビジネスや仕事の可能性を見つめてみませんか。



株式会社 ソノリテ

代表 江崎礼子さん

東部・神山町 MAP①

株式会社ソノリテ（本社・東京都江東区）は、事務代行、オンライン募金システムの開発・提供を通して非営利団体の活動支援を行っている。神山サテライトオフィスでは、コールセンターや郵送代行などをメイン業務に据えて、地域の人と移住してきた人が「一ツ屋根の下、町を越え国境を越え、縁の下の力持ち」として日々業務にあたっている。

思いがけず創業したソノリテ

ソノリテ創業以前は約7年間NGOに所属していました。環境課題や社会課題の解決に取り組む都内の別団体のイベントに、パートナーNGOの担当職員として参加した際、私を神山町に連れて来てくれることになるクリエイティブディレクターのトム・ヴィンセント氏と出会いました。

当時、非営利団体へ募金ができるオンライン決済システムは日本にほとんどなく「なんでだろう」とヴィンセント氏と話すうちに、技術的に難しいわけではないし、ないのであれば作るということになりました。仲間数人で「オンライン募金研究会」を立ち上げ、約2年でオンライン募金システム「BOOKNCHAN」を開発しました。このシステムを使っていくうちにニーズがあることがわかり、会社として他の団体にもこのシステムを提供していく必要があると考えられるようになったんです。まさか私自身がその会社を作るとは思っていなかったの

ですが「江崎さんに任せるからやってみたらどうか」という周囲の声を受け、会社を立ち上げることになりました。それがソノリテです。

2010年に創業して間もなく東日本大震災が起き、オンライン募金のニーズがさらに顕在化しました。その一ヶ月後くらいには坂本龍一氏の「子供の音楽再生基金」という被災地の学校に楽器を届けるプロジェクトが立ち上がり、募金システムを用意して欲しいという依頼も受け、対応に追われた創業期でした。

創業当初は、東京の知人のオフィスにデスク二つを間借りしていました。半年後にはアルバイト職員が3人程出入りするようになっていました。知人の仕事に支障が出るほどの場所を使ってしまうことになり、会社としてオフィスを構える必要性が生まれました。しかし、創業時から運営していたコールセンターにはスペースが必要で「コールセンターの運営をやめようかな」とヴィンセント氏に相談したところ、「神山にコールセンターを作ったら面白いのでは」とアドバイスをもらいました。当時ヴィンセント氏は、神山町役場や地域のNPOと一緒に新しいプロジェクトを進めていて、サテライトオフィスを神山町に持っていたんです。そうした経緯でヴィンセント氏と一緒に2012年1月に初めて神山町に訪れることになりました。訪ねた日が偶然「神山塾」という半年間町に滞在しながら職業訓練をするというプログラムの卒業式だったんです。そこでその主宰の



方に出会い「塾生の前でソノリテのことを話してくれませんか」と声をかけていただきました。せっかくなので、NPOや募金を集めるシステムのことで、神山町にきた経緯をお話させていただきました。「もししたらオフィスをつくるかもしれないのですが、ソノリテで働きたい人はいますか」と聞くと、予想外に4人くらい手を挙げてくれたので驚いたのを覚えています。ただ、その時はまだどこにオフィスを構えるかは決まっていませんでした。翌月、二度目の訪問でリノベーションした空き家や、改修予定でオフィスに利用できそうな建物を案内していただきましたが、決めかねていました。そんな時に、ヴィンセント氏が「使っていたオフィスが空いたので始めてみるのはいかがでしょうか」と申し出てくださったんです。当時は断熱もなければ暖房器具もなく、近所の方が「寒いやろ。そんなとこで仕事できるのか」とこたつやストーブを差し入れてくださいました。このように町の人のサポートがあつたおかげで、自然に町に馴染むことができたのだと思います。



神山サテライトオフィス前でスタッフと江崎さん



神山のオフィスで働くスタッフ

ご近所付き合いを大切にされている江崎さん

残したい、実家みたいな場所

ソノリテという会社がここまで成長を続けることができたのは、神山町にサテライトオフィスを開いたからだと思います。東京でのソノリテは、企業規模では星の数ほどある会社の一つではないけれど、神山町では同じような価値観の経営者やデザイナーと出会うことができたり、若い移住者の方と一緒にご飯を食べて仲を深めたり、名刺交換から始まらない関係を築くことができます。会社として宣伝活動をほとんどしなかったのですが、神山のサテライトオフィスのおかげでメディアに多く取り上げていただいて、PRの面でサテライトオフィスの役割はとても大きかったと思います。

とはいえ当初一部の方からは「サテライトオフィスって金儲けしに来たんやろ」というような反応が少しありました。今では町のNPOの組織運営に複数関わるようになり「一緒にまちづくり



office memo
『神山サテライトオフィス（ブルーベアオフィス）』
商店街の中の古民家を改修したオフィス。東京芸大の学生たちが設計した。窓からは向かいの山が青々と見える。

サテライト
オフィスの
ヒント外にいるからこそ
見えるもの株式会社 ORIOLE
代表 宮本 亮嗣さん広島県東広島市
鳴門市 (MAP②)

「あるものを使って、ないものをつくる」。株式会社ORIOLEは、広島・徳島を軸にして、全国をフィールドにその地域や地場産品の持ち味を生かした商品の開発、プロデュース、マーケティングなどを一手に担う。それまで価値がないとされてきたものに光を当て、アイデアで新しい価値を生み、依頼者の課題を解決する。代表の宮本さんに話を聞いた。

「元々鳴門市出身だったこともあり、何気なく、市のウェブサイトを覗いたんです。それで、サテライトオフィスの誘致に力を入れていると知って興味を持ちました。早速問い合わせると、担当者の方が地域の事業者に繋いでくれました。そういつた熱意に触れ、自分もこの町にサテライトオフィスを開設したいと思っただけです。開設してからは、徳島のチームの一員になれた気がしています。たしかに2拠点の難しさもありますが、外にいるからこそ気づけることも多いです。実際、県外に出て初めて、徳島の食の豊かさやレベルの高さを知り驚いたんですよ。また、徳島の食品メーカーは外に目を向けている人たちが多い気がしていて。そんな人たちと協業できることも刺激になっています。これからも徳島の事業者の方たちと役割分担しながら、この町に関わっていきけたらなと思っています」。

サテライトオフィス開設後は、地元の呉服店と摘果すだち※を使って開発した自社製品「すだち出汁」や、さつまいもを使った「さとむすめコロッケ」をJAと開発するなど精力的に活動を行っている。株式会社ORIOLEにとつてのサテライトオフィスは、企業自身とともに地域の可能性を広げるツールになっている。

※間引いたすだちで、廃棄されるはずだったもの。香りが良いのが特徴。



摘果すだちを使った『すだち出汁』

● 本社所在地
● サテライトオフィス所在地

リヒトコンサルティング 株式会社

代表 中村暉梨さん

南部・海陽町 MAP

リヒトコンサルティング株式会社（本社・東京都千代田区）は、中小企業の海外進出や事業承継を支援するコンサルティング企業。中小企業診断士としての顔も持つ代表の中村さんは、コンサルティングにとどまらない「伴走する支援」を得意としている。海陽町では新たな分野に挑戦を始め、活動範囲を広げている。

オフィス開設のきっかけ

2022年から海部高校という海陽町唯一の高校で、起業家講師として授業に登壇しています。元々海陽町出身で高校まで海陽町で過ごし、関西の大学へ進学しました。その後、海外で働いたあと結婚を機に帰国をして都内の金融機関で働き、そのキャリアを活かして2022年に中小企業診断士の資格を取得しました。同年4月にリヒトコンサルティング株式会社を東京で創業しました。その話を風の噂で聞かれたのだと思うのですが、海陽町商工会の方から、「次世代経営者育成プログラム」という海部高校のカリキュラムの講師をしないかという依頼の連絡が入りました。連絡をいただいた時は、少し驚いたのですが、町に何か還元できるならと依頼を受けることに決め、その年の9月に講師として初めて授業に登壇しました。

高校の授業では、会社設立の流れや経営の基礎の話などをしてしています。学校からこつこつことを話してくださいとい

覚はどちらの地域の仕事でも活かせるように思います。

そして、東京にいても海陽町にオフィスがあるということを感じるだけで、もっと町のために何かできないかという、企業活動を超えた冒険心みたいなものも湧いてくるんです。現時点では商工会や海陽町役場との連携に限られています。これからは少しずつ金融機関などとも協力して、地元事業者さんの経営支援もできるといinaと思っています。

中小企業診断士は、上から指導するような立場ではなく、一緒に伴走して寄り添うことができます。一社でも今よりいい状況にできるお手伝いをしたいという気持ちを持てるのがこの職業の良いところだなと思います。会社をつくるというのは、自分の子供を生むようなものだと思うので、リスペクトの気持ちを持ちながら、地元の方からのニーズに応えられるよう、これからもこの町の人たちと関わっていきたいと思っています。



office memo
『コワーキングセンター城山荘』
海陽町が管理するコワーキングスペース。徒歩数分圏内には波乗り好きが集まる、日本でも屈指のサーフスポットがある。

う内容はあるのですが、どうすれば授業の内容をよりよくできるか、この取り組みをもっと発信できるかということ。を毎回考えて授業に臨んでいます。ビジネスの話だけではなく、人生をより豊かに生きてほしいと思い、高校卒業後の私自身の話もお伝えしています。

私が教壇に立つて自分の経験や知識を共有することで、創業する人や、地域を盛り上げていこうという気持ちを持つ若い人が増えれば、育ててくださった地元の方たちにも恩を返していけるんじゃないかなと思います。ですので、本業とは全く畑違いですが、この仕事は続けていきたいと思っています。

つながり、温かみ、親近感

講師の依頼をきっかけに、本業である中小企業診断士として町内でも動き始め、2023年にはサテライトオフィスを開設しました。地元に戻ってくるのはもう少し先かなと思っていたのですが、想像以上に早い段階で帰ってくることで嬉しく思います。

海部高校は私の母校なのですが、数年前までこんなふうに町に関わることは全く想像もしていませんでしたし、サテライトオフィスがどういうものかも、全くイメージがなかったです。ただ、私が元々地元出身者だといえ、地域の方にとっては、「東京のコンサルティング会社」というふうに見えてしまうと思ったので、怖がられないかと不安に感じていた



部分もありました。実際にオフィスを町に構えたことで、今は、地域の方々から温かみというか、親近感を持つてもらえている気がします。ですので、地域とのつながりをつくるのにサテライトオフィスはぴったりだと感じますね。

オフィスを開設してからは、海陽町商工会の会員である事業者さん向けにSNSの活用講習や集客の方法を伝えたり、事業承継の相談を受けたりと、本業の仕事も少しずつ増えてきています。今では2ヶ月か3ヶ月に一回程度のペースで、海陽町に来られるようになりました。最近では、海陽町以外にも徳島市の写真店や旅館、南部では民宿、土木建設業の方々からも相談をいただいています。

企業活動を超えた冒険心

海陽町にいる時は、人に会っていることが多いです。地元の人に話を聞いて、どういったことに困っているのか、今町でどういう取り組みがあるのかといった情報を収集するようにしています。とても地道ですが一年やってみて、ようやく少し解像度が上がってきたと感じているところです。実際に現地にきて、足を使っ

サテライト
オフィスの
ヒント徳島に
クリエイティブの力を

株式会社 ファンドウィッチ
代表 早瀬 志都加さん
東京都世田谷区
阿南市 (MAP)

イティブは本来そういう力を持っているものです。しかし、徳島ではそれを知る機会や情報がとても少ないです。この町に帰ってきた時、ある学生さんから映像制作の仕事をしたいけれど相談相手がいないという声を聞きました。サテライトオフィスを通して、クリエイティブ職を目指す人たちを支え、私たちが東京で学んだことを徳島に還元していければ徳島のクリエイティブの環境はもっとよくなるはず。そう考え、県内の制作は、東京と徳島のチームを織り交ぜ、互いに学びのある仕事にすることを大切にしています。それが私たちにしかできないものづくりではないかな」と語る。

株式会社ファンドウィッチのサテライトオフィスを通じた取り組みが、大都市圏と徳島のクリエイターたちの交流を生み出し、徳島のクリエイティブ業界に活性化をもたらしている。



徳島での撮影風景

本社所在地
サテライトオフィス所在地

て目で見て自分で聞かないと、この町のことがなかなかわかりません。本当にインターネット上に地域の情報がないです。難しいことがあるとすると物理的に東京と海陽町では距離があるので、アクセスが悪いという言葉に集約されますが、遠いからこそ誰にでもできることではなく、ここを乗り越えた先に私にしかできないことがあると思っています。焦らずに、3年ぐらいはどんなふうに町で活動していけるのか模索する期間にしようと思っています。

東京ですと、日本の経済活動において広い視野を持つことが難しいのですが、海陽町で過ごすことで、様々な環境の事業者の方々と関わる機会が持て、より多面的に物事を捉えられるようになったと思います。「経営支援には、もっとこんな視点があった方がいいよね」と私自身、支援者としての幅が広がると思います。日本全体の視野で物事を考えられる気がしています。この感



office memo
『コワーキングセンター城山荘』
海陽町が管理するコワーキングスペース。徒歩数分圏内には波乗り好きが集まる、日本でも屈指のサーフスポットがある。

株式会社 ジュニオ

代表 米田卓也さん

西部・三好市 MAP⑥



三好ラボでの仕事風景



旅館を改装したオフィス。中庭が見通せる

株式会社ジュニオ（本社・兵庫県神戸市）は、WEBシステム、アプリケーション開発を手がけるIT企業。「四国のへそ」とも呼ばれている徳島の西の端に位置する三好市池田で、サテライトオフィスが集まる旅館の一室に「四国支店三好ラボ」を開設している。

この街と人が大好きなんです

三好市にサテライトオフィスを開設したのは、「一緒に何かしたい」と思える人たちに出会えたからです。

毎年三好市の商工政策課が大阪で実施しているサテライトオフィス企業の誘致イベントがあります。当時三好市について知らなかったのですが、関西活性化プロジェクトという企業コミュニティも運営されていて、日頃からお付き合いのある企業の代表の方にお誘いいただき、2017年に初めて参加しました。会場でお話した三好市市役所の方の印象がよく、後日開催されるという現地セミナーへの参加もその場で決めました。

セミナーの日、初めて三好市を訪ねました。予定よりも少し早く到着したので食事をとろうと商店街を散策していると、近くの池田高校の学生が「こんにちは」と挨拶をしてくれたんです。知らない学生に挨拶をされる経験が今まであまりなかったので驚きました。セミナーでは、2013年にサテライトオフィスを開設していた企業のプレゼンがあり、毎年池田高校の新卒者を2名ほ

ど採用していると聴きました。

実際にスピーカーとして登壇していたのが、その年に採用された池田高校の卒業生でした。



彼らのプレゼンテーションを見て「こんな若者たちを採用できるのか」と、印象が強く残ったんです。その後3回ほど現地での検証を経て、サテライトオフィス「四国支店三好ラボ」（以下、三好ラボ）の開設を決めました。

サテライトオフィスを開き、今年で8年目（2024年10月時点）です。私は月の約3分の1を三好市をはじめ徳島県内で過ごし、常勤のスタッフ数名が三好ラボに在籍しています。最近は様々な面で街に馴染んできたと思います。

三好市にオフィスを開設してからは、自分たちの事業に関わらず街の活動や事業にも積極的に参加しています。私たちの知見を活かしているのではないかと、もともと街の教育関係者と学生が開催していた子ども向けのプログラミング教室の運営に携わらせていただいています。街の方々に喜んでいただけて、地域に貢献することの大切さを改めて教えてもらっていると感じています。

ただ当初は、こうした本業と少し離れた活動が、社内で理解されることが難しい場面もありました。本社オフィスと

現地での採用

オフィス開設時より地元雇用を計画的に進めてきました。ありがたいことにこれまで途切れることなく現地スタッフを採用することができています。一方で、オフィスの立地的に採用活動には苦戦することも多く、一筋縄では行かない難しさを感じてきました。中でも大学生とのコミュニケーションの取りづらさが一番の問題で、他のIT企業からも同じ声を聞くことがあり、長い間「学生と出会える拠点」を作りたいと考えていました。そんな中、懇意にしている三好市のIT企業が入居していた徳島市内のオフィスが空くことになり、それを引き継ぐ形で2024年2月に「新町ラボ」という学生との交流拠点オープンに漕ぎ着けました。同じ課題感を持つサテライトオフィス企業とシェアして運営しています。新町のエリアはアクセスがよく、周辺には徳島大学をはじめ複数の大学や専門学校があります。三好市ではなかなかインターンなどの実施が難しかったのですが、この拠点でインターンとして関わってくれた大学生の内1名は、2025年の採用に繋がりました。考えていたことが形になったと、この場所を開設した価値を感じています。この拠点をきっかけに弊社に興味を持ってもらえ、採用に繋がっていくのではと、三好ラボの運営を支える一拠点となることを期待しています。

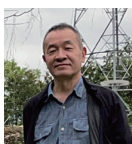


office memo
『旧政海旅館』
複数のサテライトオフィスが入居中。建物のある通りには、酒蔵や古い写真館などが軒を連ね、昔風情が残る。元旅館のレトロな雰囲気の館内も楽しい。

新たな事業の展開

今年から新たに取り組み始めたのが「三好市地域のデジタル人材育成事業」です。現在建設が進んでいる池田高校の寮の一階部分に街にひらかれた多目的施設が併設される予定です。その施設を活用して小中学生や高校生以上を対象としたエンジニアやクリエイターなどのデジタル人材育成の教育カリキュラムを開講し、そこで学んだ人たちと地域企業をマッチングする事業です。

この事業は、街の中でコンソーシアムをつくり、複数のプロジェクトで構成されており、そのプロジェクト全体を推進する業務を三好市から受託しています。プロジェクトの一つである、「高等教育機関と地域連携の推進」事業では四国大学と三好市が協力し、池田高校の生徒向けに共通テストの情報対策講義の提供や、四国大学の一部の履修単位が取れる制度の導入テストを行うなどの検証が既に進められており、デジタルを通して三好市地域から広がる新たな可能性に期待しています。

サテライト
オフィスの
ヒント新しい視野を
くれる場所株式会社アリエス
代表 三谷 博明さん本社移転
■東京都港区(→美馬市)
■美馬市 (MAP⑥)

株式会社アリエスは、化粧品企業の企画・製造・販売から医療、介護福祉施設開設のコンサルティングまで幅広く手がけている。2011年以降、BCP対策の側面から徳島県だけでなく日本各地に拠点を増やしてきた。しかし、2024年10月で本社と全てのサテライトオフィスを徳島県美馬市に集約した。どんな思いで決めたのか代表の三谷さんに話を伺った。

「徳島には、美馬市を含む3つのサテライトオフィスがありました。これらの拠点が、事業への価値観を変えてくれたんです。首都圏では人の往来が激しいため流行のサイクルがとても速い。そしてそのサイクルの中で事業をする必要があります。一方で、美馬市には100年単位で続いているものが多く残っています。そういった脈々と続くものを子や孫、そしてその先の

の物理的な距離もあるため、「コミュニケーションの取りづらさもあり、三好のスタッフとしては肩身の狭い時もあったのではないかと思います。ですが、今ではこの拠点は、なくてはならない場所になっています。コロナ禍以降、緊急事態宣言が頻繁にでていた時には、都市部のオフィスでは出社できない状況が続き、カバーできないバックオフィス業務が発生していました。そこで、都市部の拠点はテレワーク体制を整え、三好ラボを常勤体制にし、バックオフィス業務をこちらに移管しました。現在は、三好ラボがBCP対策も含め様々な機能を担っています。最近では、地方創生に関する事業化も進み、新規事業拠点としての位置付けもようやくできたと感じています。三好市での事業を続けてきたおかげで、同業他社と比べた時に「この会社は、どこか違う」とお客様に受け取っていただけで、仕事の依頼につながることも増えたと思います。



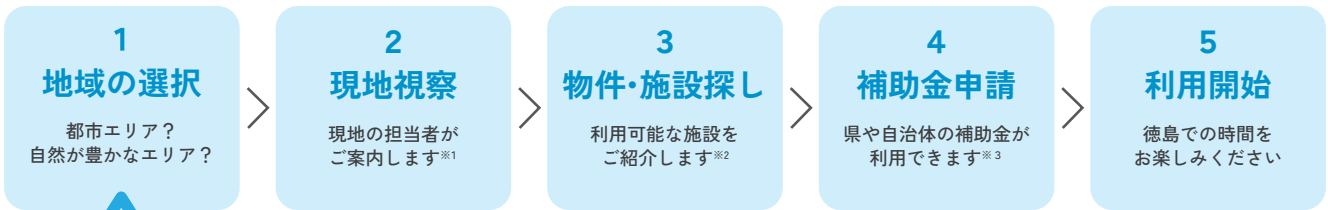
プログラミング教室の様子



「たち風プロジェクト」の拠点

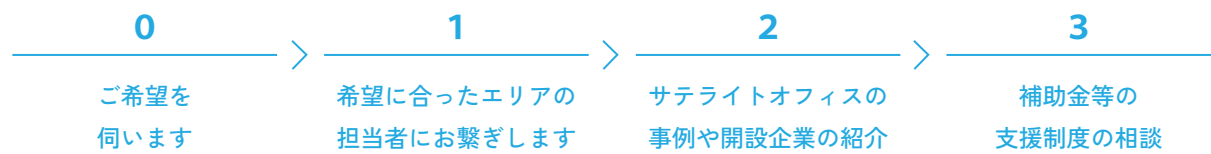
■本社所在地
■サテライトオフィス所在地

サテライトオフィス開設のステップ



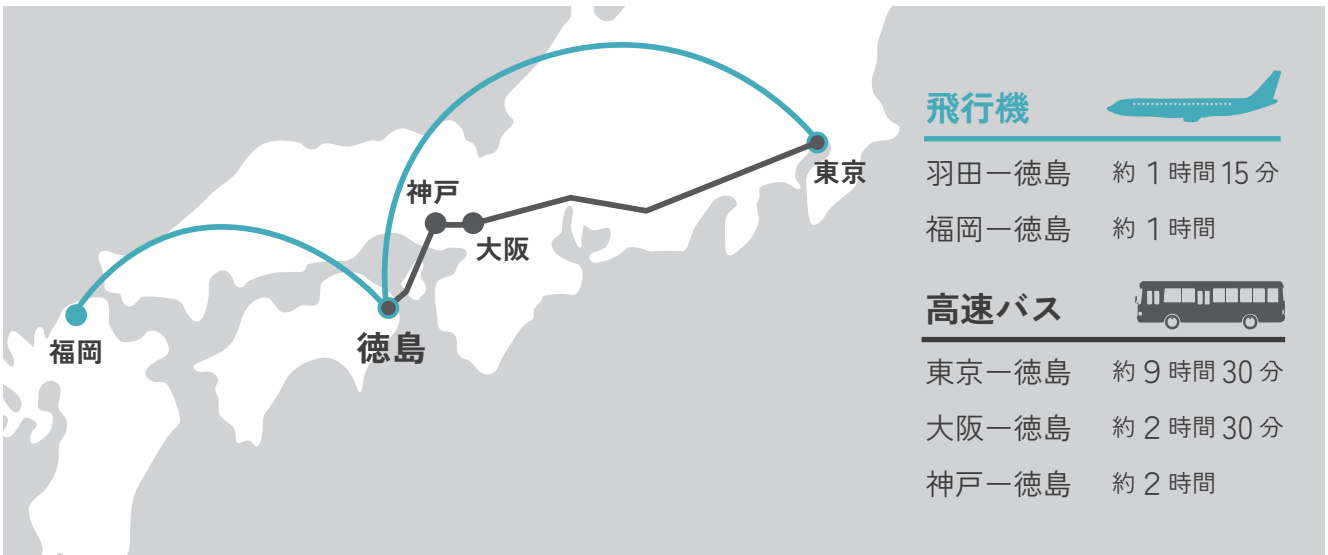
その開設、ナビゲーターがお手伝いします！

ナビゲーターは、徳島への企業進出に関する相談や視察の受け入れ、進出後の定着支援などを行うサテライトオフィス企業の相談役です。お困りの際には、私たちがお手伝いいたしますので **ご相談・お問い合わせ窓口** より、お気軽にお問い合わせください。



※1 担当者が案内できない場合もございます。ご了承ください。※2 各自治体によって対応が異なります。お問い合わせください。
※3 補助金のない自治体もあります。お問い合わせください。

アクセスマップ ACCESS MAP



サテライトオフィスについてもっと知りたい！

徳島県サテライトオフィス プロモーションサイト

サテライトオフィス、コワーキングスペース一覧、イベント情報など掲載。徳島県やマッチングナビゲーターからの新着情報もこちらで更新しています！



ご相談・お問い合わせ窓口

地域 × サテライトオフィス企業マッチングナビゲーター
認定 NPO 法人グリーンバレー

771-3421 徳島県名西郡神山町下分字地野 49-1
Tel 088-603-8696
Mail greenvalley@in-kamiyama.jp

徳島県経済産業部企業支援課

770-8570 徳島県徳島市万代町 1-1
Tel 088-621-2155 / Fax 088-621-2853
Mail kigyoushienka@pref.tokushima.lg.jp

気軽に視察

立地検討企業視察支援費補助金

補助上限
最大 **5万円** / 人
1 企業 2 人まで

サテライトオフィス、コールセンターなど、立地を検討している事業者の **現地視察にかかる旅費（宿泊費・交通費）** を助成します。

※同一年度内における補助金の交付は、1 事業者につき 2 回まで。
※交通費（タクシーを含む公共交通機関・レンタカー（給油代除く））及び宿泊費（夕食代除く）の実費を助成。
※消費税及び地方消費税相当額は、補助対象から除く。
※補助金額は 1,000 円未満の端数切り捨て。

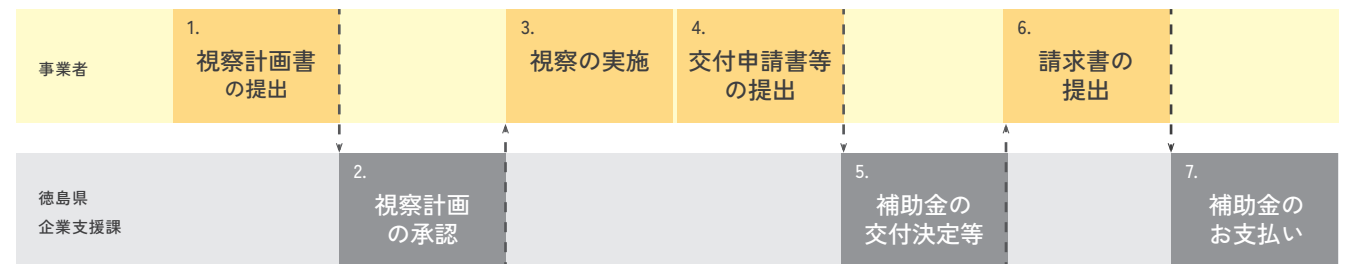
補助対象 事業者

- ・県が設ける企業立地補助制度の対象で、当該補助制度を活用して立地を検討している。（視察時点で奨励指定申請を行っている場合は除く）
- ・所在地が県外で、県内に事業所を有していない。
- ・3 年以上の事業活動実績がある。
- ・国、県、市町村等から同種の補助金等の交付を受けていない。



詳細はこちら

「立地検討視察支援費補助金」申請の流れ



※視察計画書は、視察開始日の 10 日前までに提出が必要。

※視察の行程には、県と立地に関する情報交換の機会を必ず設ける。（日程は県と協議のうえ決定）

サテライトオフィス 開設に使える

SOHO 事業者等に対する補助金

「3 年間」にわたり、ランニングコスト、雇用の助成を行います。

各種事務機器及び 通信回線使用料

最大
年間 **200万円**
補助率 1/2

事務所賃借料

最大
年間 **200万円**
補助率 1/2

新規地元雇用者増に 対する助成

1 人につき **30万円**
〔契約またはパート社員 1 人につき 15 万円〕



詳細はこちら

対象事業	要件
事業所開設	・クリエイティブ事業、SOHO 事業、DX 事業、GX 事業者であり、3 年以上の事業実績があること。 ・事業所開設に関わる本県の他の補助金を受けていないこと。 ・法人事業者は、県内市町村において常駐し、従前の事業活動を継続して 5 年以上行うこと。 ・個人事業者は、過去 3 年間の平均年間所得が 600 万円以上であること（見込みでも可）。 ・個人事業者は、徳島県内市町村に移住し、継続して 5 年以上在住し、従前の事業活動を行うこと。
本社機能移転 本社機能拡充 ※県外→県内に限る	・クリエイティブ事業、SOHO 事業、DX 事業、GX 事業者であり、3 年以上の事業実績があること。 ・本社機能移転又は拡充に関わる本県の他の補助金を受けていないこと。 ・県内市町村において常駐し、従前の事業活動を継続して 5 年以上行うこと。 ・県内にクリエイティブ事業、SOHO 事業、DX 事業、GX 事業を営む事務所を有していること（本社機能移転と同時に事業所を新設する場合は除く）。

※令和 9 年 3 月 31 日まで補助要件の緩和・補助内容の拡充を実施中。詳しくは QR コードより県ホームページ参照。